

イチゴ(とちおとめ)に対するハイフミンデルマ施用試験

日本肥糧株式会社

結果の概要

ハイフミンデルマ施用区は定植直後から葉色・葉艶も良く勢いがあった。  
 12月時点でハイフミンデルマ施用区は葉肉が厚く、がっしりとしていた。  
 ハイフミンデルマ施用区の花(果)房は太く、しっかりとした花がついた。  
 ハイフミンデルマ施用区は大果率が高く、増益に貢献した。  
 草勢が落ちる4月時点でもハイフミンデルマ区の草勢は良かった。  
 栽培終了時、ハイフミンデルマ区の地上部重量は慣行区の1.5倍であった。  
 栽培終了時、ハイフミンデルマ区の根量は慣行区の1.8倍であった。  
 土壤微生物を計数した結果、ハイフミンデルマ施用区では全糸状菌の約3割が資材由来のトリコデルマ菌になり、定着性が確認された。

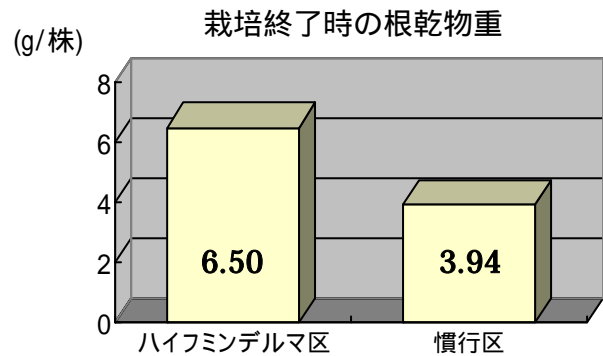
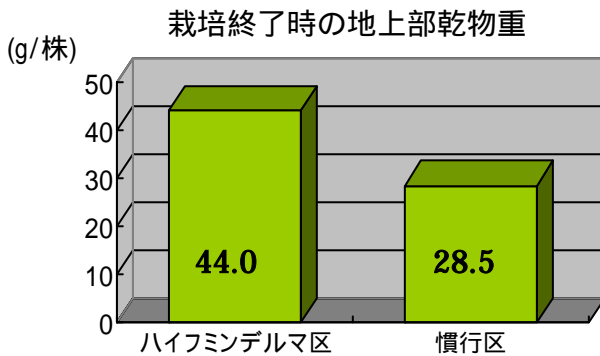
試験場所 群馬県藤岡市  
 試験担当農家 N氏  
 栽培品種 とちおとめ  
 栽培機関 2001年9月~2002年6月  
 試験結果

生育調査:栽培終了時の地上部、地下部(根)の調査結果を下表にまとめ、それぞれをグラフに示した。

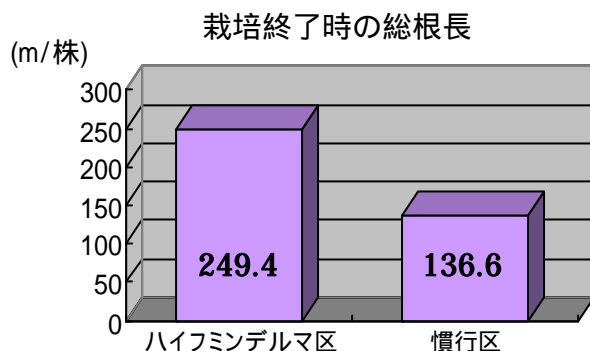
<表> 地上部および根の乾物重と総根長

区	地上部乾物重 (g/株)	根乾物重 (g/株)	総根長 (m/株)
慣行区	28.5	3.94	136.6
ハイフミンデルマ区	44.0 (154)	6.50 (165)	249.4 (183)

\*カッコ内は慣行区を100とした時の相対値



ハイフミンデルマ施用区は慣行区に比べ、地上部乾物重は1.5倍、根乾物重は1.7倍、総根長は1.8倍となっており、根の生育が極端に促進していることがわかった。



生育の様子(写真)：4月中旬の状況と、栽培終了時の植物体の様子を写真に示した。

#### 4月中旬の状況



ハイフミンデルマ施用区



慣行区

#### 栽培終了時の状態



草勢が落ちる4月中旬時点でも、ハイフインデルマ区の草勢は良かった。栽培終了後も、地上部、根張りともにハイフミンデルマ施用区のほうがよかった。

土壌微生物計数結果：栽培終了時の土壌微生物計数結果を下表に示した。

<表> 土壌微生物計数結果

区	細菌群	放線菌群	糸状菌群	トリコ <sup>®</sup> 属菌	トリコ <sup>®</sup> 比率
慣行区	$4.20 \times 10^6$	$2.71 \times 10^6$	$6.48 \times 10^4$	0	0
ハイフミンデルマ区	$3.59 \times 10^6$	$2.59 \times 10^6$	$1.42 \times 10^5$	$3.66 \times 10^4$	26.0

ハイフミンデルマ施用区ではトリコ<sup>®</sup> 比率が約3割となっており、資材由来のトリコデルマ菌が土壌中に定着することがわかった。

以上